

理論と技術を持って、実践し、看護を創造する

～高い倫理観に基づいて～

看護職員能力開発 プログラム

Ver.2



FACTナース



独立行政法人
国立病院機構

National Hospital Organization

はじめに

私たちは、国立病院機構の理念に沿った看護を実践できる看護師を「NHO-ACTy ナース」と呼んでいます。国立病院機構では、「患者の目線に立って懇切丁寧に医療を提供する」という理念を掲げ、各病院多様な特徴を持つ医療を担っています。ACTy のアルファベット一つ一つには、国立病院機構の役割を果たすために求められる看護師としての能力が含まれています。この能力を統合し、「高い倫理観に基づいて、理論と技術を持って、実践し、看護を創造する」看護師が、ACTy ナースです。

自ら自己の能力を開発し、ACTy ナースになっていくための過程では、目指す看護を実践し、リフレクションしながら乗り越える力をつけ、一歩ずつ踏み出していくことが必要です。また、後輩との学び合いをとおして自律した看護職に向かっていくことが重要です。

このプログラムを手にした時が、ACTy ナースになるためのスタートです。

国立病院機構には専門職業人としての看護職のキャリアについて様々な道が開かれています。国立病院機構は看護職員能力開発プログラムに沿って、看護実践能力の向上とキャリア形成を支援していきます。

私たち一人一人が、これまで築かれた高い看護実践能力を伝承するとともに、新たな看護を創造し続ける役割を担っています。社会の動向に対応し、それぞれの国立病院機構病院が果たす役割に応じた専門性の高い医療を提供し、地域のニーズに応え、国立病院機構の理念を実践していくことができるよう、共に学び共に成長していきましょう。

能力開発プログラム(ACTy ナース)の改訂に寄せて

1 能力開発プログラムの作成経緯

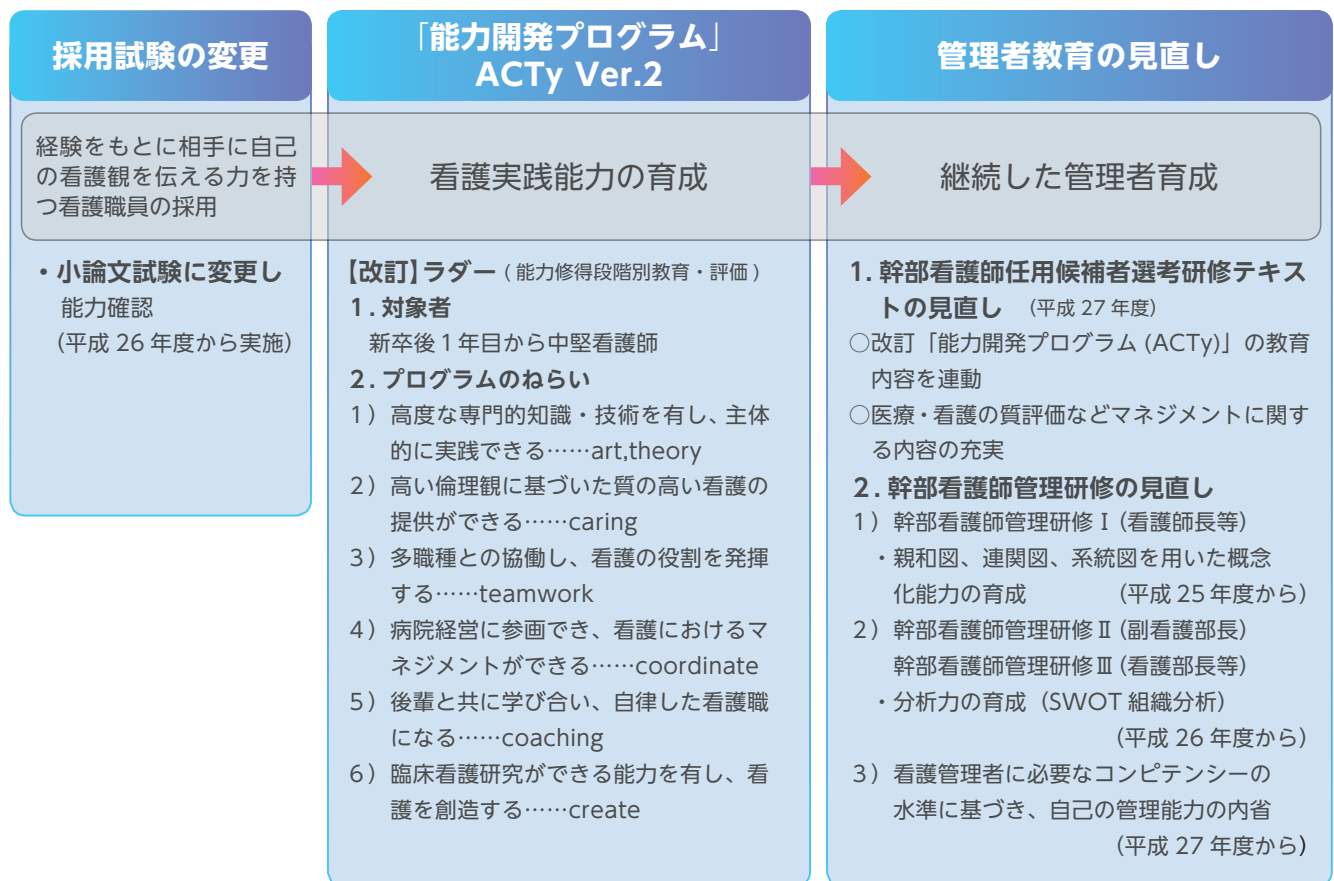
国立病院機構看護職員能力開発プログラムは、国立病院機構における「看護職のキャリアパス制度」推進の基盤になる研修内容・方法を踏まえ、各病院間の到達目標の標準化を目指したプログラムとして平成18年3月に構築されました。この能力開発プログラムを基に看護職の主体的な学習を推進するとともに、各病院が互換性のあるプログラムを活用することで看護職員のキャリア形成を支援し、さらに各病院の特徴を加え、国立病院機構が担う政策医療を推進できる看護実践能力の向上を図ってきました。

2 能力開発プログラム(ACTy ver.2)の主な改訂点

能力開発プログラムの運用から10年が経ち、わが国の医療提供体制も変化をしています。国立病院機構においても、変動する医療の動向に対応し、地域のニーズに応えられる高い実践能力と、看護を言語化できる能力を持つ看護職員の育成を目指し、プログラムの見直しを行いました。

- 1) 看護実践能力の育成から看護管理者教育への連動性を考慮したプログラムとした。
- 2) これまでと同様、全病院の標準的な到達レベルを表した。
- 3) 経年別のプログラムを、看護職員個々に応じた支援が行えるようラダーとした。
- 4) 看護職員の生涯教育を支援するため、「概ね5年目」までとした対象を「中堅看護師」とした。

**国立病院機構が求める
高い看護実践能力と、看護を言語化できる能力を持つ看護職員の育成**



5) 初版では、習得すべき臨床看護実践能力として厚生労働省の「新人看護職員の臨床実践能力の向上に関する検討会報告書」に示された「臨床実践能力の構造」の4つの柱を基盤にしていた。改訂にあたり厚生労働省の「看護教育の内容と方法に関する検討会報告書」(平成23年2月28日)で示された「看護師に求められる実践能力」の5つの枠組みを参考にし、国立病院機構の役割を果たすために求められる看護師の能力を整理した。

(初版)の枠組み

I. 看護職員として必要な基本姿勢と態度
 II. 看護実践における技術的側面
 ◎看護技術を支える要素
 III. 専門領域の実践能力
 IV. 看護実践における管理的・教育的側面
 (厚生労働省「新人看護職員の臨床実践能力向上に関する検討会報告書」(平成16年3月10日))

(Ver.2)で参考にした枠組み

看護師に求められる実践能力
 I. ヒューマンケアの基本的な能力
 II. 根拠に基づき、看護を計画的に実践する能力
 III. 健康の保持増進、疾病の予防、健康の回復にかかわる実践能力
 IV. ケア環境とチーム体制を理解し活用する能力
 V. 専門職者として研鑽し続ける基本能力
 (厚生労働省「看護教育の内容と方法に関する検討会報告書」(平成23年2月28日))

(初版)

ACTy ナース
 理論と、技術をもって、創造し、行動する看護
 (theory) (art) (create)
 ~積極的に、自発的に~

1. 高度な専門的知識・技術を有していること。
2. 看護職として主体性をもった看護実践ができること。
3. QOLの向上を目指した看護の提供ができること。
4. 高い倫理観をもって看護を提供できること。
5. 臨床看護研究ができる能力を有していること。

(Ver.2)

ACTy ナース
 理論と技術を持って、実践し、看護を創造する
 ~高い倫理観に基づいて~

I. 高度な専門的知識・技術を有し、主体的に実践できる。	Art Theory
II. 高い倫理観に基づいた、質の高い看護の提供ができる。	Caring
III. 多職種と協働し、看護の役割を發揮する。	Teamwork
IV. 病院経営に参画でき、看護のマネジメントができる。	Coordinate
V. 後輩と共に学び合い、自律した看護職になる。	Coaching
VI. 臨床看護研究ができる能力を有し、看護を創造する。	Create

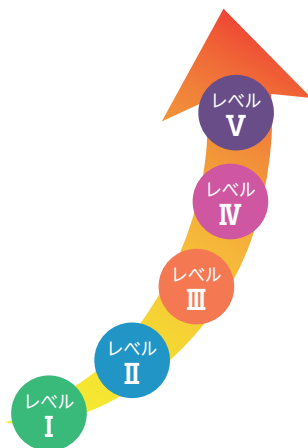
6) 能力の段階を経年別4段階からラダー5段階とした

(初版)

- 新人コース
- 実務 I (前期) (後期)
- 実務 II

(Ver.2)

レベル I	看護実践に必要な基本的能力を習得する。
レベル II	① 根拠に基づいた看護を実践する。 ② 後輩と共に学習する。
レベル III	① 個別性を重視した看護を実践する。 ② 看護実践者として、後輩に支援的役割を果たせる。
レベル IV	① 後輩の学習を支援する。 ② チームリーダーとしての役割行動がとれる。
レベル V	専門性の發揮、管理・教育的役割モデルとなり、研究的に取り組む。



7) 「看護師の臨床ラダー」(日本看護協会)との互換性に対応できる内容とし、新採用看護職員の継続したキャリア支援を可能としたキャリアラダーとした。

目次

I 独立行政法人国立病院機構の理念	7
II 国立病院機構が目指すもの	8
1. 診療事業	
2. 臨床研究事業	
3. 教育研修事業	
III 国立病院機構の看護の果たす役割	8
IV 看護職員能力開発のねらい	9
1. 国立病院機構が目指す看護師像	
2. 国立病院機構の役割を果たすために求められる看護師としての能力	
V 看護職員の能力開発(研修)体系	10
1. 能力開発(研修)体系の考え方	
看護職員の能力開発(研修)体系図	
VI 能力開発プログラム展開の実際	12
VII 活用方法	30
VIII 教育支援体制と役割	30
1. 看護部における能力開発への支援者	
2. 看護単位における新人看護職員の教育支援者	
IX 到達度評価	32
1. 評価の目的と必要性	
2. 評価の内容	
3. 評価の方法と活用	
4. 各レベルの到達度評価(参考)	

I 独立行政法人国立病院機構の理念

(NHO: National Hospital Organization)



私たち国立病院機構は

国民一人ひとりの健康と我が国の医療の向上のために
たゆまぬ意識改革を行い、健全な経営のもとに
患者の目線に立って懇切丁寧に医療を提供し
質の高い臨床研究、教育研修の推進につとめます。

シンボルマーク

機構の理念を象徴するシンボルマーク



国民一人ひとりの健康とわが国の医療の向上を、飛翔する「翼」であらわし、
柔軟な意識改革を示す毛筆で描かれている。

また、Health、Hospital そして患者本位の懇切丁寧を意味する Hospitality の
頭文字である「H」であらわし、健全な土台として描き、「翼」と組み合わせられている。

II

国立病院機構が目指すもの

国立病院機構は、医療の提供、医療に関する調査及び研究並びに技術者の研修等の業務を行うことにより、国民の健康に重大な影響のある疾病に関する医療その他の医療であって、国の医療政策として機構が担うべきものの向上を図り、もって公衆衛生の向上及び増進に寄与することを目的とし、以下のことに取り組んでいる。

1. 診療事業

- 地域における医療に一層貢献するために、都道府県が策定する医療計画を踏まえ、「がん、精神疾患、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病」の5疾病、「救急医療、災害医療、へき地医療、周産期医療、小児医療（小児救急）」の5事業を中心に地域の医療機関との連携強化
- セーフティネット分野の医療の確実な実施
- 災害等における活動
- 医療の質・患者満足度の向上のための取り組み
- 医療安全対策の充実

2. 臨床研究事業

- 診療情報の収集・分析と情報発信機能の強化
- 大規模臨床研究の推進
- 迅速で質の高い治験の推進
- 先進医療技術の臨床導入の推進
- 臨床研究や治験に従事する人材の育成

3. 教育研修事業

- 質の高い医療従事者の育成・確保
- 地域医療に貢献する研修事業の推進



質の高い医療、研究、教育を続けていくための安定した経営基盤を維持するため、各病院が自己の診療収入により収支相償を目指しており、各病院が様々な取組を行い、経営の効率化に努めている。

III

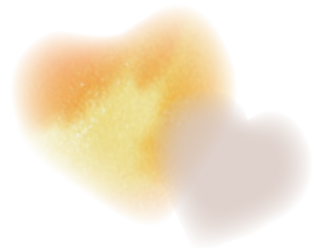
国立病院機構の看護の果たす役割

国立病院機構の看護職員は、機構の理念に沿った病院の使命を認識し、次のような役割を果たす。

1. 機構及び病院の理念を踏まえた良質の看護サービスの提供に努める。
2. 看護の質の向上を目指し、臨床看護の研究、業務の改善を行う。
3. 良質な看護を提供するために、看護職員をはじめ看護に関係する職員の教育研修を行う。
4. 看護の提供と経営効率の調和を図り、病院経営に参画する。
5. チーム医療推進のための調整を図る。
6. 地域住民への健康教育活動に参画する。

(国立病院機構看護業務指針より)

Ⅳ 看護職員能力開発のねらい ～ 自己の能力を自ら開発!～



1. 国立病院機構が目指す看護師像

国立病院機構の理念に沿った看護を実践できる看護師を **NHO-ACTy ナース** と称する。

ACTy ナース
(アクティナース)

理論と技術を持って、実践し、看護を創造する
～ 高い倫理観に基づいて～

2. 国立病院機構の役割を果たすために求められる 看護師としての能力

国立病院機構の役割を果たすために求められる看護師の能力として、下記の6点がある。

高い倫理観に基づき、国立病院機構の看護師として誇りを持って生き活きと働き、役割を果たせるよう、自己の能力を開発していきましょう。

- | | |
|-------------------------------|-----------------------------|
| 1) 高度な専門的知識・技術を有し、主体的に実践できる | A rt, T heory |
| 2) 高い倫理観に基づいた、質の高い看護の提供ができる | C aring |
| 3) 多職種と協働し、看護の役割を発揮する | T eamwork |
| 4) 病院経営に参画でき、看護におけるマネジメントができる | C oordinate |
| 5) 後輩と共に学び合い、自律した看護職になる | C oaching |
| 6) 臨床看護研究ができる能力を有し、看護を創造する | C reate |

V 看護職員の能力開発(研修)体系

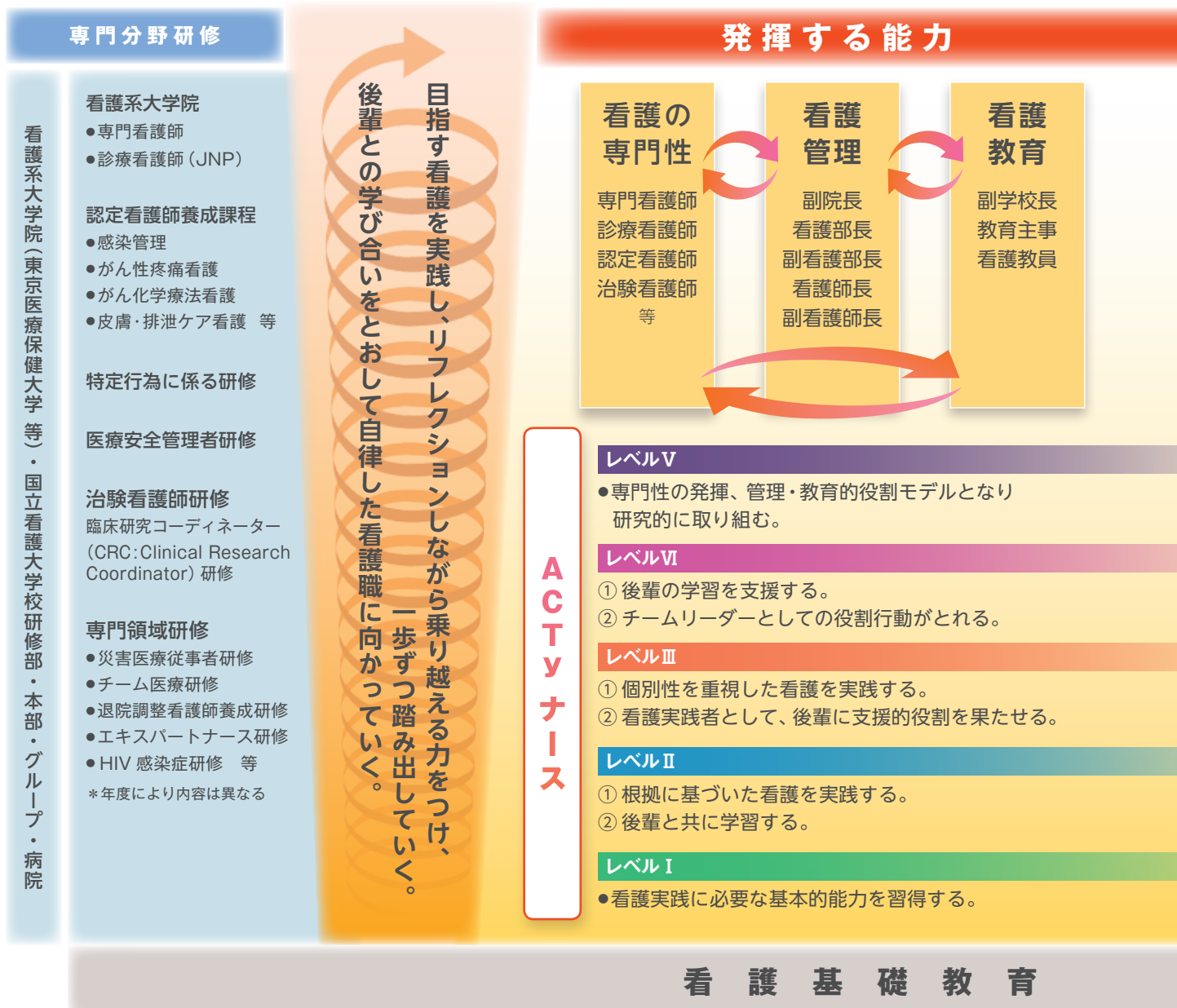
1. 能力開発(研修)体系の考え方

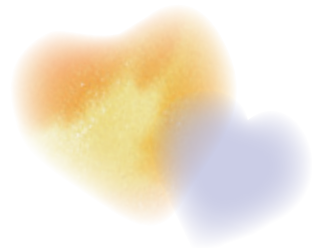
国立病院機構では、高い看護実践能力と看護を言語化できる能力を持ち、国立病院機構の理念に沿った看護が実践できる看護職を求めています。そのため、国立病院機構はキャリア形成を支援する体制を整えています。最初は ACTy ナースのレベル I～V に示した能力を自ら段階的に修得していきます。その過程において実習指導者講習会や、幹部看護師任用候補者選考研修および試験があり、後輩育成や看護マネジメントに関する知識を得ていきます。これらで得た能力を発揮する道として ①専門性の高い看護職、②看護管理者、③看護教育者、④ジェネラリストがあります。

国立病院機構では、病院、グループ、本部が一体となって研修会の開催や、大学院等を含む院内外の研修を受講する支援を行っています。

キャリアを形成する過程においては、リフレクションをしながら乗り越える力をつけ、一歩ずつ

看護職員の能力開発(研修)体系図

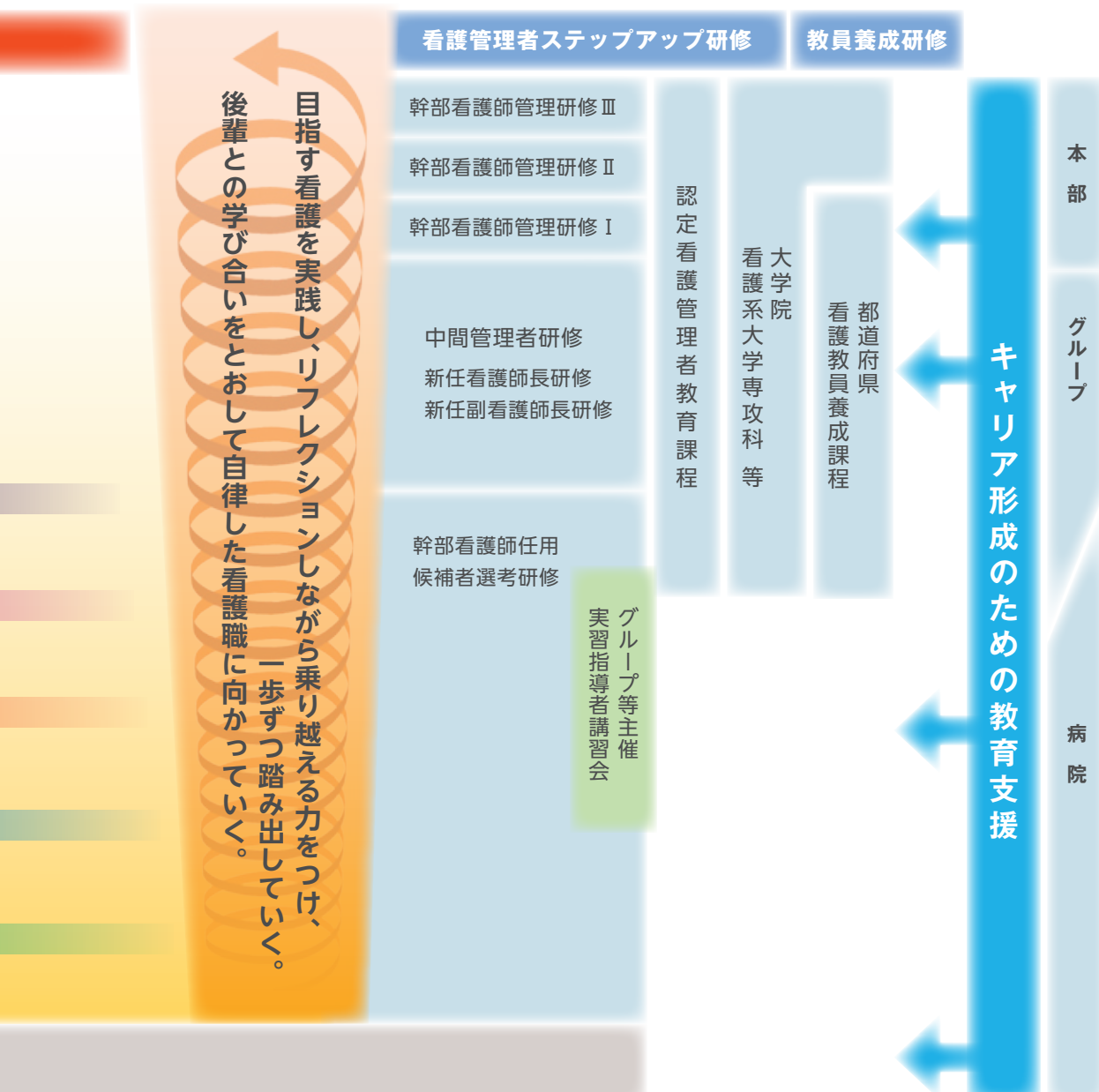




踏み出していく必要があります。リフレクションとは自己の看護実践を注意深く振り返り、意味づけをし、次の実践に向かって再構築する力をつけて前向きになることであり、これこそがキャリア形成に繋がります。また、後輩との学び合いをとおして自律した看護職に向かっていくことが重要です。自律した看護職とはひとりで自己成長することではなく、チームで後輩を育み、お互いに学び合い、後輩の成長と自己の成長を承認し合ってこそ成り立つものです。

この看護職員の能力開発体系図は看護職を対象としたものを取り上げていますが、国立病院機構が行う研修にはチーム医療を推進するために多職種が参加するものもあります。多様な医療を担う職員同士の交流によって視野が広がり、高めあえるという国立病院機構ならではの支援体制もあります。

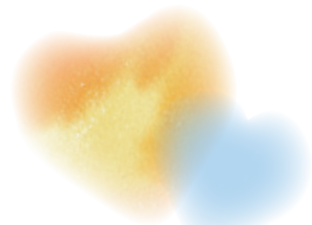
これらの研修の機会を獲得して、自己の成長につなげていきましょう。



VI 能力開発プログラム展開の実際

国立病院機構 看護職員の キャリアラダー

	レベルⅠ	レベルⅡ
	看護実践に必要な基本的能力を習得する	① 根拠に基づいた看護を実践する。 ② 後輩と共に学習する。
	学習・実践の内容	学習・実践の内容
I 高度な専門的知識・技術を有し、主体的に実践できる	<ol style="list-style-type: none"> 1. データベースを活用して、健康状態をアセスメントする。 2. 基本的な技法を用いて、患者・家族と適切な援助的コミュニケーションを図る。 3. 医療安全管理マニュアル・院内感染防止マニュアルに基づいて行動する。 4. 看護基準・手順に沿った看護を実践する。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自ら情報を得て対象のニーズをアセスメントする。 2. 患者・家族の反応を受け止め、援助的関係を形成する。 3. 医療安全管理マニュアル・院内感染防止マニュアルを基に、危険を予測し、看護を実践する。 4. 根拠に基づいた看護を実践する。
II 高い倫理観に基づいた、質の高い看護が提供できる	<ol style="list-style-type: none"> 1. 多様な価値観・信条や生活背景をもつ人を尊重した行動がとれる。 2-1) 看護ケアについて患者・家族にわかりやすい説明を行い、同意を得る。 2-2) 患者・家族の思い・考え・希望を理解する。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 倫理上のジレンマを表現する。 2. 患者・家族の思い・考え・希望をケアにいかす。
III 多職種と協働し、看護の役割を発揮する	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護チームの一員として自分の役割を理解する。 2. 多職種と情報共有する。 3. 地域において、自施設の果たす役割と位置づけを理解する。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護チーム内での役割を遂行する。 2. 多職種と情報交換する。 3. 退院支援システムのプロセスを理解する。
IV 病院経営に参画でき、看護マネジメントができる	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護ケアの質の評価や改善の必要性を理解する。 2. NHO が担う医療を理解する。 3. 自施設の運営目標と看護部の位置づけを理解する。 4. コスト意識を持つ。 5. 自施設の危機管理対策を理解し、助言を受けて行動する。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護ケアの質向上のための改善点に気づく。 2. NHO が担う医療に関心を持つ。 3. 組織の目標を理解し、目標達成に向けて行動する。 4. 医療用消耗品・医療用機器を管理する。 5. 自施設の危機管理対策について、院内各規程に基づき行動する。
V 後輩と共に学び合い、自律した看護職になる	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日常の看護実践の中で、支援を受けながら看護行為の振り返りを行う。 2. 看護実践における問題意識を持つ。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日常の看護実践の中で、看護行為の振り返りを習慣づける。 2. 後輩の心身の変化を気にかける。
VI 臨床看護研究ができる能力を有し、看護を創造する	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護実践における問題解決のため必要な文献検索を行う。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自己の課題を見出し文献学習する。



レベルⅢ	レベルⅣ	レベルⅤ
① 個別性を重視した看護を実践する。 ② 看護実践者として、後輩に支援的役割を果たせる。	① 後輩の学習を支援する。 ② チームリーダーとしての役割行動がとれる。	専門性の発揮、 管理・教育的役割モデルとなり、 研究的に取り組む。
学習・実践の内容	学習・実践の内容	学習・実践の内容
1. 対象の個別性を捉えたニーズをアセスメントする。 2. 患者・家族とのコミュニケーションを促進し、援助的関係を構築する。 3-1) 医療安全管理マニュアル・院内感染防止マニュアルに基づき、主体的に行動する。 3-2) 部署内の医療安全・感染防止に関する問題提起する。 4. 患者の個別性を重視した看護を実践する。	1. ニーズとニーズの関連を明らかにする。 2. 患者・家族の立場や状況を見極め、安定した援助的関係を維持する。 3. 所属部署内の医療安全・院内感染防止に関する問題を改善するために、主体的に対策を提案し、継続して実践できるよう働きかける。 4. 状況に応じ、適確な判断のもと看護を実践する。	1. 多様なニーズを把握し、患者の価値観を反映した判断ができる。 2. 患者・家族、多職種との関係の構築について後輩の役割モデルとなる。 3. 医療事故防止対策や感染予防対策について他部署に働きかける。 4. 状況に応じて医療チームに働きかけ、看護を実践する。
1. 医療倫理・看護倫理上の問題に気づき、問題提起する。 2. 患者・家族にわかりやすい説明と必要な情報提供を行い、意思決定の支援をする。	1. 倫理的問題の解決に向け、権利擁護に向けた行動をとる。 2. 高度かつ複雑な看護を必要とする状態の患者及び家族に対し、適切な説明と助言を行い、意思決定の支援をする。	1. 倫理的視点に基づく看護実践の役割モデルとしての行動をする。 2. 患者の意思決定支援において後輩の役割モデルとなる。
1. 主体的に看護チームの一員としての役割を遂行する。 2. 多職種と連携・相談する。 3-1) 地域の支援ネットワークを理解する。 3-2) 自施設の退院支援システムを活用し、退院支援ができる。	1. 看護チームのリーダーとして行動する。 2. 多職種と協働する。 3-1) 地域の関連機関や支援者と関係性を築き、協働する。 3-2) 地域の支援ネットワークを活用し、主体的に退院支援ができる。	1. 看護チームの役割モデルとして行動する。 2. 多職種と協働・調整する。 3. 患者・家族のニーズを充足するために保健医療福祉サービスの継続性が保証できるよう調整する。
1. 看護ケアの質の評価を行い、看護の質向看護の質向上に向けた改善の手立てを提案する。 2. 社会の医療の変化に目を向け、NHOが担う医療に関心を持つ。 3. 自部署の目標達成のため役割遂行できる。 4. 診療報酬と看護実践の関連について理解する。 5. 自施設の危機管理対策について所属部署内の問題を提起する。	1. チームの中で看護ケアの質を評価し、看護の質を高めるための行動をとる。 2. 社会の医療の動向を踏まえ、病棟内の看護やケアに関連した課題を見つけ、解決する。 3. リーダーの役割を理解し、主体的に行動する。 4. 業務改善に取り組む。 5. 所属部署内の危機管理対策に関する問題を改善するために、主体的に改善策を提案し、継続して実践できるよう働きかける。	1. チームの中で看護ケアの質を評価し、改善するための方策をスタッフを巻き込んで取り組める。 2. 社会の医療の動向を踏まえ、自施設の病院が担う看護や経済的課題を見つけ、解決の方策を考える。 3. 自部署の課題に対し、他部門と調整しながら解決行動をとる。 4. 経営改善、業務改善に取り組む。 5. 自施設の危機管理対策について他部署に働きかける。
1. 経験を日々の看護実践にいかし、自己の看護観を高める。 2. 後輩の学習を支援する。	1. 自己のキャリア形成について具体的な展望を持ち、主体的に自己研鑽する。 2. 後輩育成の役割を果たす。	1. 自己のキャリアアンカーを確認し、役割モデルを果たす。 2. チームで学習できる環境を整える。
1. 自己の看護実践の意味づけを行う。	1. 研究的態度を身につける。	1. 研究的に取り組む。

I 高度な専門的知識・技術を有し、主体的に実践できる

レベル I	レベル II
看護実践に必要な基本的能力を習得する。	① 根拠に基づいた看護を実践する。 ② 後輩と共に学習する。
学習・実践の内容	学習・実践の内容
1. データベースを活用して、健康状態をアセスメントする。	1. 自ら情報を得て対象のニーズをアセスメントする。
<p>【アセスメント】 診療記録上の情報の確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 多様な情報源の活用 ② 身体・心理・社会面・スピリチュアルからの情報収集 ③ 患者のニーズの理解 <p>④ 看護基礎教育で得たアセスメントの視点の知識と観察に基づいた看護の必要性の判断</p> <p>*アセスメントの視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 健康障害の理解 ● 健康レベル ● 成長発達段階 ● 家族看護 <p>*観察能力</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 基本的なフィジカルアセスメント <p>*緊急度を捉える認識</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 患者の状況の緊急度の認識 ● 緊急度に応じた観察と報告 ● 生命の危機にかかわる緊急性のある異常の発見 	<p>【アセスメント】 患者・家族及び多職種の情報収集</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 多様な情報源の活用 ② 身体・心理・社会面・スピリチュアルからの情報収集 ③ 患者ニーズの理解 ④ 患者の状態に合わせた観察 ⑤ フィジカルアセスメントの実施 ⑥ 顕在化している課題把握 ⑦ 自ら対応可能かの判断

レベルⅢ	レベルⅣ	レベルⅤ
①個別性を重視した看護を実践する。 ②看護実践者として、後輩に支援的役割を果たせる。	①後輩の学習を支援する。 ②チームリーダーとしての役割行動がとれる。	専門性の発揮、 管理・教育的役割モデルとなり、 研究的に取り組む。
学習・実践の内容	学習・実践の内容	学習・実践の内容
1. 対象の個性を捉えたニーズをアセスメントする。	1. ニーズとニーズの関連を明らかにする。	1. 多様なニーズを把握し、患者の価値観を反映した判断ができる。
<p>【アセスメント】</p> ①全体像の理解 ②家族役割の理解 ③患者・家族の思いの理解 ④家族役割の理解と支援 ⑤対象の多角的情報からアセスメントした総合的な看護判断 ⑥看護計画や看護ケアに患者・家族の要望を反映 ⑦個別性を踏まえ多職種からの情報収集 ⑧患者・家族の希望を踏まえ、入院生活・退院調整に必要な情報収集 ⑨正確なフィジカルアセスメント ⑩優先度の高いニーズの把握 ⑪状態に合わせた観察内容・関連の理解 ⑫必要時の観察項目の追加 ⑬異常値出現時の対処 ⑭潜在化している課題の把握 ⑮患者・家族の生活の理解	<p>【アセスメント】</p> ①患者・家族の思いを理解した看護実践 ②患者・家族の理解に関する後輩指導 ③疾患の予後、退院後の生活等の予測的な状況判断のもと情報収集 ④家族での役割、仕事、病識等を意図的焦点化したうえで確認 ⑤情報収集を統合してニーズを把握 ⑥フィジカルアセスメントを行い患者の状況の原因を予測、意図的観察 ⑦人生の最終段階に向けた患者・家族のニーズの把握	<p>【アセスメント】</p> ①複眼的な視点から迅速に状況判断 ②複雑な状況や多様なニーズを把握し、必要な介入の判断 ③疾患の予後と治療による影響や退院他の生活予測 ④患者をとりまく多様な人々がつ情報の重要性の理解 ⑤患者・家族の価値観をアセスメントし多様なニーズの把握



レベルⅠ	レベルⅡ
2. 基本的な技法を用いて、患者・家族と適切な援助的コミュニケーションを図る	2. 患者・家族の反応を受け止め、援助的関係を形成する。
(1) 【援助的コミュニケーション】 ①看護職の身だしなみや対応が与える影響を理解した適切なマナー・接遇 ②不適切な接遇に伴うトラブルのリスクの理解 ③患者個人としての尊重 ④思いやりと共感的態度 ⑤患者－看護師関係の理解	(1) 【援助的コミュニケーション】 ①患者、家族を尊重した対応 ②ケアリングの理解
(2) 【カウンセリング】 ①看護者としてのカウンセリング能力の必要性理解	(2) 【カウンセリング】 ①看護者としてのカウンセリングの実践
3. 医療安全管理マニュアル・院内感染防止マニュアルに基づいて行動する。	3. 医療安全管理マニュアル・院内感染防止マニュアルを基に、危険を予測し、看護を実践する。
(1) 【安全を守る技術】 ①マニュアルの理解とマニュアルに基づいた行動 ②看護行為に伴う危険性の理解 ③手順に沿った誤薬防止 ④患者誤認防止策の実施 ⑤転倒転落防止策の実施 ⑥薬剤・放射線暴露防止策の実施 ⑦基本的な医療安対策を考えた実施 ⑧事故防止におけるコミュニケーションの重要性の理解 ⑨暴力対策の理解と事案発生時の報告・相談	(1) 【安全を守る技術】 ①患者に予測される事故防止策についての看護計画への組み入れ
(2) 【感染防止策】 ①スタンダードプリコーションの実施 ②感染経路に応じた院内感染予防策の理解 ③助言のもと感染経路別予防策の実施 ④防護用具の選択 ⑤無菌操作の実施 ⑥規程に沿った医療廃棄物の取り扱い ⑦針刺し事故防止行動と針刺し事故後の対応 ⑧洗浄、消毒、滅菌の適切な選択	(2) 【感染防止策】 ①標準予防策の確実な実施 ②感染経路に応じた院内感染予防策の実施

レベルⅢ	レベルⅣ	レベルⅤ
<p>2. 患者・家族とのコミュニケーションを促進し、援助的関係を構築する。</p>	<p>2. 患者・家族の立場や状況を見極め、安定した援助的関係を維持する。</p>	<p>2. 患者・家族、多職種との関係の構築について後輩の役割モデルとなる。</p>
<p>(1) 【援助的コミュニケーション】</p> <p>①患者一看護師関係に基づく意図的コミュニケーション</p>	<p>(1) 【援助的コミュニケーション】</p> <p>①安定した良好な人間関係の構築 ②患者・家族の意思尊重と、チーム内の調整</p>	<p>(1) 【援助的コミュニケーション】</p> <p>①患者・家族との援助的関係構築の後輩支援</p>
<p>(2) 【カウンセリング】</p> <p>①カウンセリングの実践と患者の反応に基づく評価</p>	<p>(2) 【カウンセリング】</p> <p>①高度・複雑な看護を必要とする患者へのカウンセリングの実践と患者の反応に基づく評価</p>	<p>(2) 【カウンセリング】</p> <p>①高度・複雑な看護を必要とする患者へのカウンセリングの実践について後輩支援</p>
<p>3-1) 医療安全管理マニュアル・院内感染防止マニュアルに基づき、主体的に行動する。</p> <p>3-2) 部署内の医療安全・感染防止に関する問題提起する。</p>	<p>3. 所属部署内の医療安全・院内感染防止に関する問題を改善するために、主体的に対策を提案し、継続して実践できるよう働きかける。</p>	<p>3. 医療事故防止対策や感染予防対策について他部署に働きかける。</p>
<p>(1) 【安全を守る技術】</p> <p>①看護行為に伴う危険性を多角的に予測 ②原理原則に基づき、患者個別の状況に応じた安全な方法の選択 ③患者に実施された事故防止策の評価 ④看護行為に伴う危険性とマニュアル遵守について後輩指導</p>	<p>(1) 【安全を守る技術】</p> <p>①高度・複雑な看護を要する患者に応じた安全確保対策の判断と実施</p>	<p>(1) 【安全を守る技術】</p> <p>①安全の保証 ②事故防止対策のチェック機能 ③原因分析（根本分析 RCA：Root Cause Analysis）等 ④再発防止</p>
<p>(2) 【感染防止策】</p> <p>①患者に実施された感染防止策の評価 ②医療廃棄物の取り扱いに対する問題提起と後輩指導 ③感染防止・廃棄物の処理</p>	<p>(2) 【感染防止策】</p> <p>①患者に応じた感染防止策に対する後輩指導</p>	<p>(2) 【感染防止策】</p> <p>①感染防止策に対する後輩指導</p>

レベルⅠ

4. 看護基準・手順に沿った看護を実践する。

(1) 【エビデンスに基づいた実践】

- ①最新の情報を活用した根拠に基づく看護実践
- ②看護基準・手順の内容の理解と不確実な点の確認

(2) 【状況に応じた看護実践】

- ①基準・手順に則ったケアの説明と実践
 - 日常生活援助技術
 - 重症患者や医療依存度の高い患者に対し指示を受けてケア
 - 診療の補助技術
 - 疼痛緩和技術
 - ②安全・安楽な看護の方法の思考と実践
 - ③受け持ち患者の看護計画の立案・実施
-
- ④急変時：対応の場面において、流れを把握、指示の把握メモ、バイタルサイン確認等、できることを実施
 - ⑤救命救急処置技術

(3) 【看護記録】

- ①看護記録記載基準の理解と基準に沿った記録
- ②患者の症状・反応、及び看護実践内容を正確に記録
- ③看護記録における法的役割の理解に基づいた記録

レベルⅡ

4. 根拠に基づいた看護を実践する。

(1) 【エビデンスに基づいた実践】

- ①看護基準・手順を理解した実践
- ②エビデンスに基づく看護実践
- ③看護基準・手順のエビデンスから見た問題提起

(2) 【状況に応じた看護実践】

- ①標準看護計画を追加変更しケアの実施
 - ②重症患者・医療依存度の高い患者のケア
 - ③必要な情報を得て状況にあわせた援助
 - ④一般的な内容を網羅した指導
 - ⑤起こりうる危険性を予測した観察
-
- ⑥急変時：指示されたケアを責任を持って実施

(3) 【看護記録】

- ①患者・家族の反応等の記録

レベルⅢ	レベルⅣ	レベルⅤ
4. 患者の個別性を重視した看護を実践する。	4. 状況に応じ、適確な判断のもと看護を実践する。	4. 状況に応じて医療チームに働きかけ、看護を実践する。
(1) 【エビデンスに基づいた実践】 ①最新の情報を活用した根拠に基づく看護実践 ②看護基準・手順の定期的見直し	(1) 【エビデンスに基づいた実践】 ①最新の研究成果の情報 ②研究成果の批判的思考を用いた看護実践 ③看護基準・手順に沿った後輩指導	(1) 【エビデンスに基づいた実践】 ①新しいガイドライン等によりマニュアル等の見直しの構築、修正 ②実践課題を見だしチームでの解決
(2) 【状況に応じた看護実践】 ①患者の状況に応じた的確な看護判断と個別的な看護ケアの提供 ②患者の生活習慣・価値観・希望等を考慮した支援 ③優先順位を正しく判断したケア ④起こりうる危険性を予測した観察、予防的対処 ⑤社会的資源の活用 ⑥多職種との情報交換 ⑦個別性を捉えた看護について後輩指導 ⑧急変時：家族への配慮	(2) 【状況に応じた看護実践】 ①熟練した技術の提供による患者満足度の高いケアの実践 ②患者の状況に応じて創意工夫した看護ケアの実践 ③高度・複雑な看護を必要とする患者に対する的確な判断と適切な看護技術の提供 ④自施設に適用可能な特定行為に定められた診療の補助技術に関する知識の理解 ⑤個々の患者に応じた安全・安楽な看護実践 ⑥適確な判断と適切な看護技術提供に対する後輩指導 ⑦幅広い選択肢からの提案やケア ⑧患者の反応に応じた段階的支援 ⑨急変時：原因・今後の展開を予測した対応と今後の準備	(2) 【状況に応じた看護実践】 ①重症、急変、複雑な状況に合わせた看護実践 ②患者の複雑なニーズに対応するためにあらゆる知見を用い、QOLの向上、生活の可能性を広げるケア ③自施設に適用可能な特定行為に定められた診療の補助技術を実践する上で必要なアセスメント ④急変時：複雑な病態の患者においても原因、今後の展開を予測した対応等と今後の準備
(3) 【看護記録】 ①情報開示を考慮した看護記録の作成 ②第三者が見て理解できる記録について、後輩に指導	(3) 【看護記録】 ①看護記録の監査	(3) 【看護記録】 ①看護記録の質的評価

II 高い倫理観に基づいた、質の高い看護が提供できる

レベル I	レベル II
<p>1. 多様な価値観・信条や生活背景をもつ人を尊重した行動がとれる。</p>	<p>1. 倫理上のジレンマを表現する。</p>
<p>(1) 【患者の尊厳】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①人間の生命・尊厳の尊重 ②患者の多様な価値観を尊重する重要性の理解 	<p>(1) 【患者の尊厳】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①患者個々の多様な価値観の理解と尊重
<p>(2) 【患者の権利】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①自施設で掲げられている患者の権利の理解 ②プライバシーに配慮した看護実践 	<p>(2) 【患者の権利】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①患者の権利擁護の理解
<p>(3) 【看護職の倫理】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①職業倫理、「看護者の倫理綱領」の理解 ②看護師の責任の理解 ③専門職業人としての使命と心構え ④職場内の規律の理解 ⑤看護職者としての健康管理 	<p>(3) 【看護職の倫理】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①専門職業人としての自覚と行動 ②アサーティブコミュニケーション
<p>2-1) 看護ケアについて患者・家族にわかりやすい説明を行い、同意を得る。</p> <p>2-2) 患者・家族の思い・考え・希望を理解する。</p>	<p>2. 患者・家族の思い・考え・希望をケアにいかす。</p>
<p>(1) 【看護職の説明責任】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①対象に応じた適切な情報提供 ②患者・家族が納得できる看護実践の説明。および反応の把握 	<p>(1) 【看護職の説明責任】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①対象に応じた情報内容の整理と情報提供方法の工夫
<p>(2) 【意思決定の支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①患者・家族の思い・考え・希望の汲み取り ②患者・家族が抱える問題の気づき ③患者が自己決定するために他の看護師、多職種に必要な情報提供の必要性の理解と指導を受けて実践 ④受け持ち患者の家族への配慮 ⑤検査・治療に関する同意書の重要性の理解 	<p>(2) 【意思決定の支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①患者・家族の思い・考え・希望の意図的確認 ②患者・家族の思い・考え・希望をケアに反映 ③説明に対し、患者・家族の認識と医療者の認識のズレに気づき追加説明の調整 ④検査・治療に関する同意書の適切な管理

レベルⅢ	レベルⅣ	レベルⅤ
1. 医療倫理・看護倫理上の問題に気づき、問題提起する。	1. 倫理的問題の解決に向け、権利擁護に向けた行動をとる。	1. 倫理的視点に基づく看護実践の役割モデルとしての行動をする。
(1) 【患者の尊厳】 ①医療倫理・看護倫理上の問題提起	(1) 【患者の尊厳】 ①倫理的視点に基づく看護実践行動 ②倫理原則に基づいた問題解決	(1) 【患者の尊厳】 ①倫理的視点での後輩指導
(2) 【患者の権利】 ①患者の権利に関連した問題提起	(2) 【患者の権利】 ①患者の擁護者、代弁者としての行動	(2) 【患者の権利】 ①患者の権利擁護に関する後輩指導
(3) 【看護職の倫理】 ①倫理に基づいた自発的な行動	(3) 【看護職の倫理】 ①倫理的行動について後輩のモデル的役割 ②組織人としての行動	(3) 【看護職の倫理】 ①関連する職種と連携し、倫理カンファレンスの開催 ②倫理カンファレンス開催後の記録
2. 患者・家族にわかりやすい説明と必要な情報提供を行い、意思決定の支援をする。	2. 高度かつ複雑な看護を必要とする状態の患者及び家族に対し、適切な説明と助言を行い、意思決定の支援をする。	2. 患者の意思決定支援において後輩の役割モデルとなる。
(1) 【看護職の説明責任】 ①患者・家族が十分納得できる説明の工夫、および反応の把握	(1) 【看護職の説明責任】 ①高度・複雑な看護を必要とする患者および家族に対する適切な助言	(1) 【看護職の説明責任】 ①高度・複雑な看護を必要とする家族への意思決定に必要な情報の説明
(2) 【意思決定の支援】 ①患者・家族に提供する看護ケアの判断・選択に必要な情報の提供 ②患者・家族の意思の尊重と、意思決定に必要な情報の提供 ③患者・家族の価値観・生き方・意向の引き出し ④訴えの客観的判断 ⑤患者・家族の疑問に対する適切な対応 ⑥意向の異なる現状を多職種に代弁 ⑦患者の意思決定した内容の支援 ⑧患者・家族がそれぞれに持つ複数の思い・気持ち・価値観に寄り添う ⑨検査や治療に関する説明の同席時の記録	(2) 【意思決定の支援】 ①患者・家族が意思決定した内容の支援調整、ゆらぎの共有 ②患者・家族の気持ちを引き出す ③意思決定プロセスの促進、選択の共有 ④患者・家族が自ら決定できるよう積極的に関わり ⑤患者・家族の意思決定支援にかかわるカンファレンスの開催・調整 ⑥カンファレンス開催後の記録 ⑦患者・家族と医療者の意向が異なる場合、意向の違いの原因を捉え、カンファレンスの開催 ⑧複雑な意思決定場面に寄り添う ⑨意思決定に関わる揺らぎに寄り添う	(2) 【意思決定の支援】 ①自ら考え意思決定できるよう積極的に踏み込んだ関わり ②意図的に医療チームを動かして意思決定プロセスを支援 ③日々変化することを念頭におき、多角的な視点から尊重し寄り添う ④複雑な意思未決定場面で尊厳を尊重した意思決定のため適切なリソースを積極的に活用し調整 ⑤患者・家族への意思決定支援の振り返り

Ⅲ 多職種と協働し、看護の役割を発揮する

レベルⅠ	レベルⅡ
<p>1. 看護チームの一員として自分の役割を理解する。</p>	<p>1. 看護チーム内での役割を遂行する。</p>
<p>【看護チーム内の役割遂行】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①看護単位の特殊性、入院患者の代表的な疾患・治療の理解 ②看護単位の日常業務の流れ、各勤務の業務内容の理解 ③担当する複数患者の看護ケアの優先度の決定 ④業務の時間内遂行 ⑤担当する患者の計画をチームメンバーへの報告 ⑥予定外事態が発生した場合のチームメンバー、リーダーへの報告、連絡、相談 ⑦チームメンバーとしての役割遂行 	<p>【看護チーム内の役割遂行】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①メンバーの立場や人間性を尊重した対応 ②看護チーム内での情報共有、看護方針の確認 ③看護の優先度の判断 ④勤務時間内の業務遂行
<p>2. 多職種と情報共有する。</p>	<p>2. 多職種と情報交換する。</p>
<p>【多職種との協働】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①多職種・関連部門の役割および連携の理解 ②チーム医療の構成員として自己と他のメンバーの価値観や役割の理解 ③チーム医療の一員として自己の役割の遂行 ④必要な情報を同僚や多職種に提供 ⑤カンファレンスの参加と、情報提供及び共有 ⑥関係者の多様な価値観の理解 	<p>【多職種との協働】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①多職種協働の必要性に気づく ②医師と治療方針等を確認、患者の訴え等の情報提供 ③多職種と情報交換 ④カンファレンスに参加し積極的発言
<p>3. 地域において、自施設の果たす役割と位置づけを理解する。</p>	<p>3. 退院支援システムのプロセスを理解する。</p>
<p>【地域との協働】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①継続看護の理解 ②看護が継続するための地域における自施設の役割 ③自施設の退院支援システムの理解 ④地域医療にかかわる医療政策の理解 	<p>【地域との協働】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①自施設の退院調整システムを活用した担当患者の退院調整の判断と相談

レベルⅢ	レベルⅣ	レベルⅤ
1. 主体的に看護チームの一員としての役割を遂行する。	1. 看護チームのリーダーとして行動する。	1. 看護チームの役割モデルとして行動する。
【看護チーム内の役割遂行】 ①日々のリーダー業務の遂行 ②チームメンバーの業務調整 ③医師・看護師長への的確な報告・連絡、および指示・方針のメンバーへの伝達 ④カンファレンスの運営	【看護チーム内の役割遂行】 ①看護体制におけるリーダーの役割の理解と行動 ②看護単位の問題の理解と、解決に向けたリーダーシップ行動 ③看護単位の目標、活動計画立案及び評価の参画 ④看護管理上の問題の調整を上司とともに実施 ⑤後輩指導	【看護チーム内の役割遂行】 ①看護チーム内での直接的指示・支援 ②看護チーム内で役割を効果的に発揮できるよう調整 ③上司に対してリーダーシップ行動 ④自律的判断のもと多職種への働きかけ
2. 多職種と連携・相談する。	2. 多職種と協働する。	2. 多職種と協働・調整する。
【多職種との協働】 ①関連部門、多職種の職務の理解と、医療チームにおける問題の提起 ②メンバーからの情報に対する事実確認 ③多職種連携の推進 ④積極的に必要な職種と関わり、協力依頼 ⑤カンファレンス開催	【多職種との協働】 ①他部門、多職種との協働、多職種間のファシリテート ②組織横断チームとの協働 ③起こりうる課題を予測してスペシャリストの関わり方の提案・調整 ④急変時に対応しながら全体を見た指示・指導	【多職種との協働】 ①保健医療福祉サービスの資源の活用と継続性の保証 ②継続看護、在宅看護、地域保健・学校保健 ③全体を俯瞰し、周囲への指示・支援 ④多職種の役割が効果的に発揮できるよう活力を引き出す ⑤チームの目標共有、連携促進 ⑥カンファレンスに中心となって問題解決に導く ⑦多職種と院内外の複雑な調整
3-1) 地域の支援ネットワークを理解する。 3-2) 自施設の退院支援システムを活用し、退院支援ができる。	3-1) 地域の関連機関や支援者と関係性を築き、協働する。 3-2) 地域の支援ネットワークを活用し、主体的に退院支援ができる。	3. 患者・家族のニーズを充足するために保健医療福祉サービスの継続性が保証できるよう調整する。
【地域との協働】 ①退院後の生活を見通した多職種とのコーディネート ②担当患者の適切な退院支援の実施 ③地域の支援ネットワークを活用した継続看護の理解	【地域との協働】 ①自施設の退院支援システムを活用した自部署の退院支援の問題提起 ②自部署の退院支援の後輩指導	【地域との協働】 ①診療圏内の医療施設との連携 ②地域連携システムの活用・多職種との協働 ③地域ネットワーク作り・社会資源・情報発信

IV 病院経営に参画でき、看護マネジメントができる

レベルⅠ	レベルⅡ
1. 看護ケアの質の評価や改善の必要性を理解する。	1. 看護ケアの質向上のための改善点に気づく。
【看護ケアの質】 ①ケアに対する患者・家族の反応から改善点の理解	【看護ケアの質】 ①患者・家族の反応から看護ケアの改善
2.NHO が担う医療を理解する。	2. NHO が担う医療に関心を持つ。
(1) 【医療の動向】 ①保健医療福祉提供システムの理解	(1) 【医療の動向】 ①保健医療福祉提供システムの理解
(2) 【NHO が担う医療】 ① NHO が担う医療の理解 <ul style="list-style-type: none"> ● 5 疾病 5 事業 ● セーフティネット系分野 ②自施設が担う医療の理解 ③担当する医療分野の概要・看護についての理解と助言を受けて実施	(2) 【NHO が担う医療】 ①NHO が担う医療における自施設の役割の理解 ②自部署が担当する医療分野の概要の理解、看護の実施
3. 自施設の運営目標と看護部の位置づけを理解する。	3. 組織の目標を理解し、目標達成に向けて行動する。
(1) 【組織】 ①病院の組織体系における看護部の位置づけの理解 ②看護職の一員として、看護部における自己の位置づけの理解 ③就業規則の理解 ④タイムマネジメント ⑤自己の健康管理	(1) 【組織】 ①病院職員の一員として、組織の目標と部署の目標の理解 ②病院の組織体系の理解
(2) 【目標管理行動】 ①国立病院機構、病院及び看護部の理念と運営目標の認識 ②自己の目標に向かい努力	(2) 【目標管理行動】 ①部署の目標と、自己の目標の関連 ②自己の目標達成への行動

レベルⅢ	レベルⅣ	レベルⅤ
<p>1. 看護ケアの質の評価を行い、看護の質向上に向けた改善の手立てを提案する。</p>	<p>1. チームの中で看護ケアの質を評価し、看護の質を高めるための行動をとる。</p>	<p>1. チームの中で看護ケアの質を評価し、改善するための方策をスタッフを巻き込んで取り組める。</p>
<p>【看護ケアの質】</p> <p>①退院時アンケート、患者満足度調査の結果の把握と自部署の課題の理解</p> <p>②看護ケアの質評価についての理解</p>	<p>【看護ケアの質】</p> <p>①看護ケアの質評価の指標についての理解、および上司とともに自部署の課題の改善</p> <p>②自己の仕事の成果のモニター</p> <p>③質問・要求・苦情に対し適切にフォロー</p>	<p>【看護ケアの質】</p> <p>①看護の質評価</p> <p>②患者・家族等に生じた問題に迅速な対応</p> <p>③患者満足度調査結果に基づいた看護ケアの改善</p> <p>④他者の仕事の成果のモニター</p> <p>⑤チーム協働による看護ケアの質改善</p>
<p>2. 社会の医療の変化に目を向け、NHO が担う医療に関心を持つ。</p>	<p>2. 社会の医療の動向を踏まえ、病棟内の看護やケアに関連した課題を見つけ、解決する。</p>	<p>2. 社会の医療の動向を踏まえ、自施設の病院が担う看護や経済的課題を見つけ、解決の方策を考える。</p>
<p>(1) 【医療の動向】</p> <p>①人口動態や疾病構造の動向の理解</p>	<p>(1) 【医療の動向】</p> <p>①保健医療福祉の動向の理解と役割行動</p> <p>②医療に関する施策の理解</p>	<p>(1) 【医療の動向】</p> <p>①疾病構造の変遷や課題</p> <p>②医療対策の動向と疾病対策</p> <p>③保健医療福祉サービスについての経済的・政策的課題を含めた成り立ち</p>
<p>(2) 【NHO が担う医療】</p> <p>①自部署が担当する医療分野の看護の特殊性を後輩に指導</p> <p>②異なる医療分野についての主体的な学習</p> <p>③自部署の看護に誇りを持つ</p>	<p>(2) 【NHO が担う医療】</p> <p>①担当する医療分野における熟練した看護の実践</p> <p>②担当する医療分野における看護実践を後輩に指導</p> <p>③異なる医療分野での看護実践</p> <p>④自施設の看護に誇りを持つ</p>	<p>(2) 【NHO が担う医療】</p> <p>①所属するサービス提供組織のありようを改革</p> <p>②地域における自施設の看護の役割（社会参加）の提案</p> <p>③異なる医療分野において役割モデルを果たす</p> <p>④NHOが担う看護に誇りを持つ</p>
<p>3. 自部署の目標達成のため役割遂行できる。</p>	<p>3. リーダーの役割を理解し、主体的に行動する。</p>	<p>3. 自部署の課題に対し、他部門と調整しながら解決行動をとる。</p>
<p>(1) 【組織】</p> <p>①病院組織の一員として、組織の目標達成に向けた行動</p> <p>②患者へのよりよい医療の提供に向けた各部門の位置づけや役割の理解と連携</p> <p>③勤務計画表と就業規則の理解</p>	<p>(1) 【組織】</p> <p>①病院職員の一員として、組織の目標を達成するための自部署の課題や実践の提案</p> <p>②就業規則と関係法規についての理解</p>	<p>(1) 【組織】</p> <p>①病院組織の一員として、自部署の課題の評価と見直し</p> <p>②病院の組織体系を理解し、よりよい医療の提供に向けた各部門との連絡・調整</p> <p>③労務災害防止</p> <p>④健康管理・福利厚生</p>
<p>(2) 【目標管理行動】</p> <p>①病院および看護部の理念に基づいた所属部署の目標達成のため自己の役割の遂行、およびリーダーシップの発揮</p>	<p>(2) 【目標管理行動】</p> <p>①病院の年度計画を理解した行動</p> <p>②会議、委員会活動の積極的参加</p> <p>③目標達成に向けて、障害の克服</p> <p>④委員会等での決定事項の部署での実践と指導</p>	<p>(2) 【目標管理行動】</p> <p>①課題に対しPDCAサイクルを廻す</p> <p>②危機的状況の対応</p> <p>③問題回避のための行動</p>

レベルⅠ

レベルⅡ

4. コスト意識を持つ。	4. 医療用消耗品・医療用機器を管理する。
<p>(1) 【経営参画】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①コスト意識をもった衛生材料の適切使用 ②実践した行為について診療報酬に基づいた手続きの実施 	<p>(1) 【経営参画】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①医療用消耗品等の管理 (定数の確認・補充)
<p>(2) 【医療機器・看護用品管理】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①規程に基づいた医療機器、看護用品の取扱い 	<p>(2) 【医療機器・看護用品管理】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①医療機器、看護用品の正しい取り扱いと点検
<p>(3) 【医薬品管理】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①薬剤の請求・受領の基準・手順の理解と実施 ②薬剤の特徴に応じた管理の理解と実施 ③血液製剤の請求・受領の基準・手順の理解と実施 ④血液製剤の特徴に応じた保管と実施 	<p>(3) 【医薬品管理】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①医薬品の正しい取り扱いができる。
5. 自施設の危機管理対策を理解し、助言を受けて行動する。	5. 自施設の危機管理対策について、院内各規程に基づき行動する。
<p>(1) 【医療安全管理体制】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①医療安全管理規程の理解 ②医療安全管理規程に基づいた確認行動 ③インシデント・アクシデントの理解 ④インシデント・アクシデント発生時の速やかな報告 ⑤状況の簡潔な言語化 	<p>(1) 【医療安全管理体制】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①所属部署内の安全対策の実施
<p>(2) 【院内感染予防管理体制】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①院内感染予防管理規程の理解 	<p>(2) 【院内感染予防管理体制】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①院内感染予防管理規程に基づいた行動
<p>(3) 【個人情報の保護】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①守秘義務の遵守 ②医療情報に関する規程の理解 ③医療情報に関する規程遵守の行動 ・ 個人情報が記載された書類、メモの管理等 ④医療スタッフへの適切な情報提供 	<p>(3) 【個人情報の保護】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①医療情報の正しい取扱い
<p>(4) 【災害対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①院内のマニュアルの理解 ②災害発生時の自己の役割の理解 ③被災時の状況、経過等の理解 	<p>(4) 【災害対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①院内マニュアルの理解とマニュアルに基づいた行動 ②災害発生時における治療と応急処置の理解

レベルⅢ	レベルⅣ	レベルⅤ
4. 診療報酬と看護実践の関連について理解する。	4. 業務改善に取り組む。	4. 経営改善、業務改善に取り組む。
<p>(1) 【経営参画】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①医療機器・材料に係る費用の理解 ②診療報酬、介護保険（介護報酬）の理解と看護上の改善点の提案 ③診療報酬の動向への関心と自部署の看護 	<p>(1) 【経営参画】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①診療報酬に照らし、看護上の改善点の提案 ②経営改善に関する改善策の提案 ③診療報酬、介護保険（介護報酬）の理解と看護上の改善点の提案 	<p>(1) 【経営参画】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①診療報酬・介護保険（介護報酬）の理解とそれに基づく自部署の改善への取り組み ②自施設の経営方針や経営状況の理解と、所属部署内での改善に向けた取り組み ③病床管理 ④経営改善に向けた後輩指導
<p>(2) 【医療機器・看護用品管理】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①所属部署内の医療機器・看護用品の取り扱いと看護の効率を上げる視点を持った保管・整備・点検方法の提案 	<p>(2) 【医療機器・看護用品管理】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①医療機器・看護用品等の点検方法についての後輩指導 	<p>(2) 【医療機器・看護用品管理】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①安全性、効率性の観点を持った所属部署の必要物品の見直し
<p>(3) 【医薬品管理】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①所属部署内の薬剤・血液製剤の請求・受領・保管に関する問題提起 ②所属部署内の薬剤・血液製剤に関する後輩指導 	<p>(3) 【医薬品管理】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①所属部署内の薬剤管理体制上の問題提起と解決策の提案 ②法令に基づいた薬剤の適切な取扱いについて後輩指導 	<p>(3) 【医薬品管理】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①安全な薬剤管理のための見直し
5. 自施設の危機管理対策について、所属部署内の問題を提起する。	5. 所属部署内の危機管理対策に関する問題を改善するために、主体的に改善策を提案し、継続して実践できるよう働きかける。	5. 自施設の危機管理対策について他部署に働きかける。
<p>(1) 【医療安全管理体制】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①所属部署内の安全に関する事実の追及と問題分析 ②安全対策の立案と実施 ③所属部署内の安全管理についての後輩指導 ④マニュアル改訂の提案 	<p>(1) 【医療安全管理体制】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①所属部署内の安全管理に関する問題提起し、改善策を提案する ②安全管理について後輩指導 ③事故防止に向けたチームリーダーとしての役割 	<p>(1) 【医療安全管理体制】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①病院全体の医療安全システムに関する問題提起
<p>(2) 【院内感染予防管理体制】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①院内感染予防管理規程に基づく率先した行動と、実践をとおして、自部署の課題の気づき 	<p>(2) 【院内感染予防管理体制】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①所属部署内の院内感染予防管理に関する問題提起 ②院内感染予防管理について後輩指導 	<p>(2) 【院内感染予防管理体制】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①病院全体の院内感染予防管理システムについての問題提起
<p>(3) 【個人情報の保護】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①医療情報の取り扱いについての問題提起 	<p>(3) 【個人情報の保護】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①個人情報提供に関する問題提起と解決 	<p>(3) 【個人情報の保護】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①情報提供、個人情報保護に関する後輩指導
<p>(4) 【災害対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①所属部署内の災害対策に関する問題を提起 ②災害発生時の院内対応の理解 	<p>(4) 【災害対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①所属部署内の災害対策に関する問題提起と改善策の提案 ②災害発生時の院内対応の実践 	<p>(4) 【災害対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①病院全体の災害対策に関する問題提起 ②被災地の避難所等の医療救護活動の理解

IV 病院経営に参画でき、看護マネジメントができる

V 後輩と共に学び合い、自律した看護職になる

レベルⅠ	レベルⅡ
<p>1. 日常の看護実践の中で、支援を受けながら看護行為の振り返りを行う。</p>	<p>1. 日常の看護実践の中で、看護行為の振り返りを習慣づける。</p>
<p>(1) 【セルフコントロール】 ①起こった事象に対する自己の傾向の理解 ②ストレスへの気づき</p>	<p>(1) 【セルフコントロール】 ①起こった事象における自己の傾向の理解と、感情のコントロール ②ストレスに対する自己の対処行動の気づき</p>
<p>(2) 【リフレクション】 ①自己の看護について表現 ②自己の言動を客観視した表現 ③看護行為の振り返りと看護観</p>	<p>(2) 【リフレクション】 ①自信を持って自己表現 ②根拠に基づいた看護について振り返り</p>
<p>2. 看護実践における問題意識を持つ。</p>	<p>2. 後輩の心身の変化を気にかける。</p>
	<p>(1) 【スタッフ支援】 ①新採用者の気持ちの理解 ②新人の心身の状況への配慮</p>
<p>(3) 【自己学習力】 ①看護実践における問題意識</p>	<p>(3) 【自己学習力】 ①専門職業人としての自己課題の認識</p>

VI 臨床看護研究ができる能力を有し、看護を創造する

<p>1. 看護実践における問題解決のため必要な文献検索を行う。</p>	<p>1. 自己の課題を見出し文献学習する。</p>
<p>(1) 【研究的態度】 ①文献検索方法の理解と、必要な文献の収集 ②学習の効果を活用した看護実践</p>	<p>(1) 【研究的態度】 ①研究的視点をもとに、看護実践における課題解決行動 ②状況理解のための文献検索</p>

レベルⅢ	レベルⅣ	レベルⅤ
<p>1. 経験を日々の看護実践にいかし、自己の看護観を高める。</p>	<p>1. 自己のキャリア形成について具体的な展望を持ち、主体的に自己研鑽する。</p>	<p>1. 自己のキャリアアンカーを確認し、役割モデルを果たす。</p>
<p>(1) 【セルフコントロール】 ①起こった事象を受け止め、倫理観をもって一歩踏み出す ②ストレスマネジメント</p>	<p>(1) 【セルフコントロール】 ①起こった事象に対して乗り越える自己の承認 ②看護チーム内における自己の傾向の理解に基づく安定した対応</p>	<p>(1) 【セルフコントロール】 ①感情をコントロールしたしなやかな対応 ②多職種との援助的関係成立についての振り返り</p>
<p>(2) 【リフレクション】 ①自信を持って新たなことにチャレンジ ②病院・看護部の理念の展開について振り返り ③受け持ち患者の看護の振り返りを明文化</p>	<p>(2) 【リフレクション】 ①自分で意思決定し責任ある行動 ②受け持ち患者の看護の振り返りを他者にプレゼンテーション ③後輩支援、リーダーシップに関する振り返り ④家庭・自己・仕事の3領域を調整させた将来的なキャリア計画の立案</p>	<p>(2) 【リフレクション】 ①自己の判断に自信を持って責任ある行動 ②役割モデルについて振り返り ③自己のキャリアアンカーの確認 ④自己の看護観の明確化 ⑤後輩の看護実践を概念化してフィードバック</p>
<p>2. 後輩の学習を支援する。</p>	<p>2. 後輩育成の役割を果たす。</p>	<p>2. チームで学習できる環境を整える。</p>
<p>(1) 【スタッフ支援】 ①新人の役割モデル ②後輩の精神的支援 ③後輩の力を引き出すコーチングの理解 ④成人学習者の理解</p>	<p>(1) 【スタッフ支援】 ①後輩に応じた適切な支援 ②後輩の力を引き出すコーチングの実践 ③後輩の看護実践モデル ④後輩育成の意義 ⑤看護職員の教育計画の理解</p>	<p>(1) 【スタッフ支援】 ①チームで学習する環境づくり</p>
<p>(2) 【学生支援】 ①学生の気持ちの理解と配慮</p>	<p>(2) 【学生支援】 ①学生個々に応じた適切な学習支援</p>	<p>(2) 【学生支援】 ①学生支援・実習目標達成支援 ②病院見学者の案内</p>
<p>(3) 【自己学習力】 ①自己の課題解決</p>	<p>(3) 【自己学習力】 ①専門職業人としての主体的な自己研鑽</p>	<p>(3) 【自己学習力】 ①教育方針の浸透 ②院外研修参加と伝播</p>

<p>1. 自己の看護実践の意味づけを行う。</p>	<p>1. 研究的態度を身につける。</p>	<p>1. 研究的に取り組む。</p>
<p>(1) 【研究的態度】 ①看護の質向上に向けた研究結果の活用 ②看護実践を文献等を用いて意味づけ</p>	<p>(1) 【研究的態度】 ①専門職業人としての研究的態度 ②研究における倫理的配慮の理解 ③過去の経験等いかした問題・状況把握 ④状況理解のため情報収集し、必要なリソースを活用 ⑤問題の細分化</p>	<p>(1) 【研究的態度】 ①課題について研究的取り組み ②研究的取り組みの成果のまとめ ③状況や問題の本質に迫る情報収集 ④複雑な概念の適用 ⑤状況や問題の関係性の分析</p>

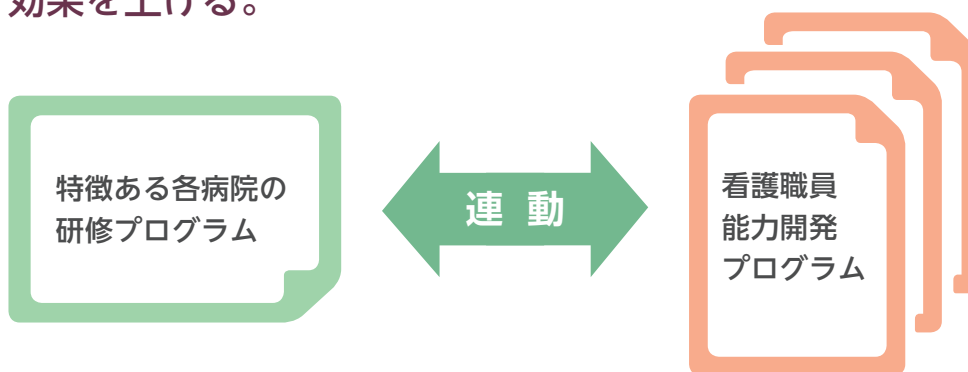
Ⅴ 後輩と共に学び合い、自律した看護職になる
Ⅵ 臨床看護研究ができる能力を有し、看護を創造する

VII 活用方法

1. 看護職員は実践能力向上の指針として、主体的に学習を行うためにプログラムを常に手元に置き活用する。

- 1) このプログラムは、採用時に受け取る。
- 2) 看護職員はこのプログラムに目を通し、常に主体的に学ぶ姿勢をもつ。
- 3) 理解できないこと、疑問点は必ず説明を求める。
- 4) 常にプログラムに基づき振り返り、目標をもってとりくむ。
- 5) 各レベルの能力の修得状況は、自己評価と他者評価で確認し、ポートフォリオにまとめておく。

2. 各看護単位・病院・グループ間のネットワークを活用し、効果を上げる。



VIII 教育支援体制と役割

1. 看護部における能力開発への支援者

- 1) **看護部長**
看護部長はその責任において看護職員全体の能力開発（研修）が効果的に行われるようにする。
- 2) **副看護部長**
OFF-JTとOJTのメリットを考慮して、教育担当の看護師長と共に教育・研修の企画・運営・評価をする。
- 3) **教育担当看護師長**
看護部長、副看護部長の指示の下、各看護単位の教育担当者と共に、看護職員能力開発プログラムに基づき、系統的な教育の企画と運営を行い支援する。
 - (1) 能力開発プログラムに沿った計画を作成する。
 - (2) 集合研修を計画し、機会教育と統合できる教育を企画運営する。
 - (3) プリセプター、各看護単位の教育担当者の相談を受け支援する。

2. 看護単位における新人看護職員の教育支援者

先輩看護職員全員が日々の看護実践の場面を通して、後輩を育成する屋根瓦方式の教育を基本とし、プリセプターだけに負担をかけないよう支援する。

1) プリセプター

新人看護職員の最も身近な相談者として悩みを傾聴し、共有する役割を担う。

2) 先輩看護師

新人や他の看護師、プリセプターの支援をする。

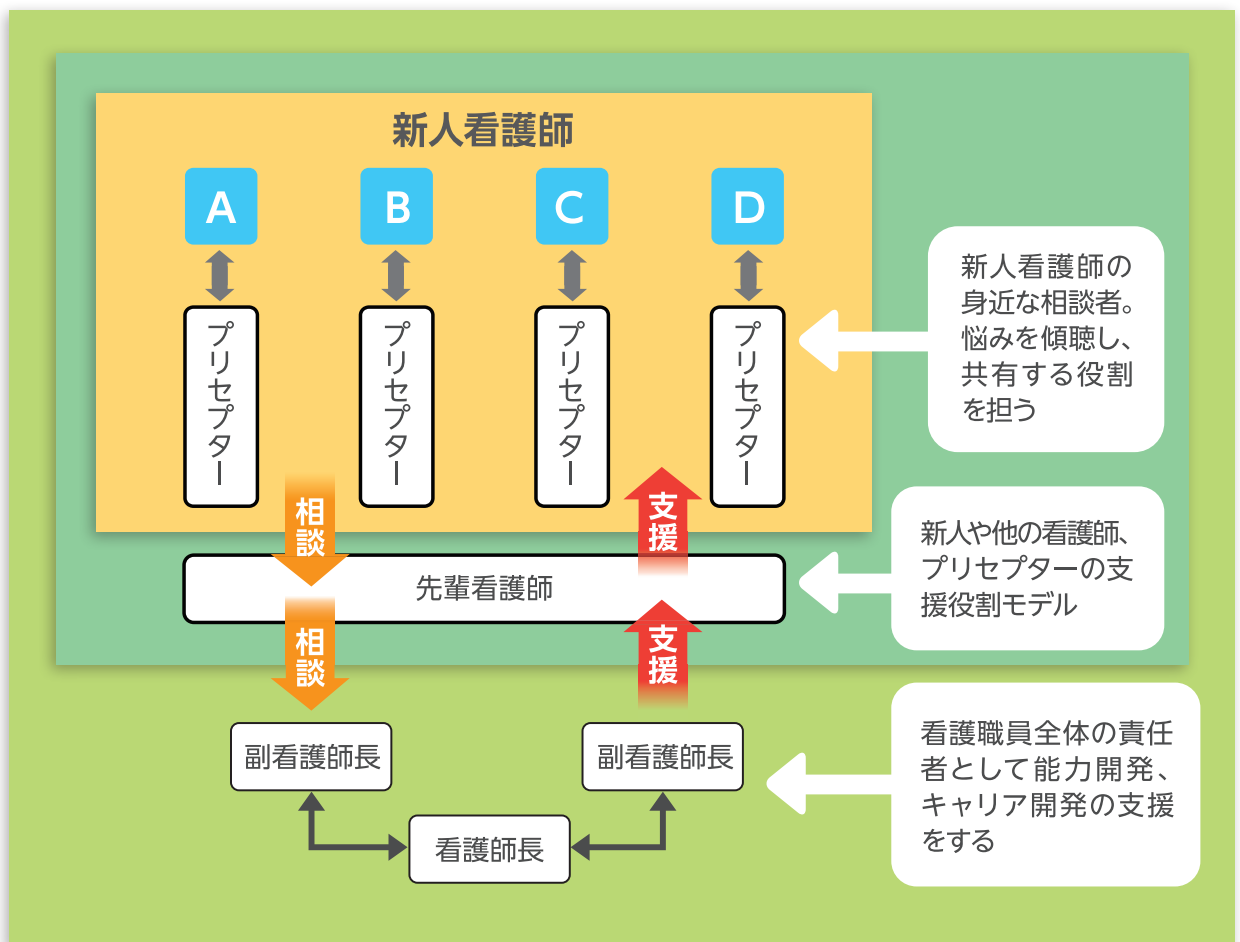
看護実践場面において支援・指導を行い新人やプリセプターの看護実践能力を望ましい状況に導く。

新人やプリセプターの役割モデルとなる。

3) 看護師長・副看護師長

当該看護単位の責任者として、到達度を把握し、各自のキャリア開発を支援する。

看護単位における支援体制





到達度評価

1. 評価の目的と必要性

研修の目的、到達目標に対して、看護職員個人の到達度を確認し、研修の内容、講師の妥当性、運営方法等の評価を行うことで効果的な研修を展開する。

学習者と研修企画および支援者の双方の立場から評価する。

学習者 …………… 各看護実践能力修得段階における目標に到達できているか、自己で評価することにより達成感を得ると共に、未到達の目標に対して学習方法・課題を見出し、主体的にさらなる能力開発を目指すことを目的とする。

支援者 …………… 学習者が各看護実践能力修得段階における目標に到達できているか、評価することにより、未到達の目標に対して効果的な研修方法を工夫する等、学習者がさらなる能力開発を目指せるように、支援することを目的とする。

2. 評価の内容

1) 学習者の目標の到達度、学習効果、満足度、研修後の行動変容

- 看護実践能力修得段階の到達度の評価
- 看護実践能力修得段階ごとの課題レポートで評価

集合教育等では感想文、レポート等も参考にする。

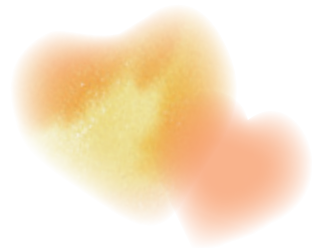
※新人看護職員の看護技術については、新人看護職員ガイドライン【改訂版】(平成26年2月厚生労働省)に掲載されている「看護職員としての必要な基本姿勢と態度」「技術的側面:看護技術」「管理的側面」を参考にし、評価する。

2) 研修企画側、学習支援者側の評価

- (1) 学習者の準備段階(レディネス)の把握
- (2) プログラムの適切性
- (3) 講師、教材、研修方法、会場設定、日時の適切性
- (4) 学習成果と研修後のフォロー体制
- (5) 研修に係る経費

3. 評価の方法と活用

- 1) 到達度は、プログラムの到達目標の内容に沿って評価していく。
- 2) 評価は、自己評価と他者評価とし、評価は絶対評価とする。
- 3) 支援者は、個人の達成状況に合わせて支援する。
未達成のものについては、より効果的な方法を考慮し支援する。
- 4) 自病院で達成できない場合は、他の病院で研修する機会を設けるなどの工夫をする。
- 5) 学習者は、主体的に自己評価を繰り返し、他者評価を積極的に受けることで次の目標に進む。



4. 各レベルの到達度評価(参考)

1) 課題レポート

(1) レポート課題(参考)

レベル	課題テーマ
レベルⅠ	その人らしさを支える看護とは
レベルⅡ	エビデンスに基づいた看護とは
レベルⅢ	自部署の看護力を高めるための自己の役割遂行
レベルⅣ	意思決定を支える看護とは
レベルⅤ	自部署の看護サービスを向上させるための自己の取り組み

(2) 記載方法

① 書式設定

- ・ A4 縦長横書き、1000字程度(40字×25行程度)
余白上下左右25mm、書体MS明朝、文字サイズ11ポイント

② 文献からの引用方法

文献から引用する場合は「・・・・・・」¹⁾のように番号で示し、本文の最後一括して引用番号順に文献を記載する。

③ 本文は各課題レポートの指定文字数とし、引用・参考文献一覧は本文の文字数に含めない。

(3) 評価指標(参考)

評価内容	評価
① 課題テーマに準じた内容で、問題を明確に提示されている。	
② 看護場面は自己の看護実践の事実と患者の反応(結果)を含めて述べられている。	
③ 看護場面をふまえ、レポートの課題に応じた考察が述べられている。	
④ レポートの課題に準じて内容が一貫し、まとめ(結論)が述べられている。	
<評価基準> A：記載できている。 B：だいたい記載できている。 C：助言を受けても記載できない。	
<到達の指標> ○全ての評価項目がB以上	

2) 各段階の能力の評価

(1) レベル I 能力評価 (参考)

	項目	自己	支援者
I 高度な専門的知識・技術を有し、主体的に実践できる	1. データベースを活用して、健康状態をアセスメントする。		
	2. 基本的な技法を用いて、患者・家族と適切な援助的コミュニケーションを図る。		
	3. 医療安全管理マニュアル・院内感染防止マニュアルに基づいて行動する。		
	4. 看護基準・手順に沿った看護を実践する。		
II 高い倫理観に基づいた、質の高い看護が提供できる	1. 多様な価値観・信条や生活背景をもつ人を尊重した行動がとれる。		
	2-1) 看護ケアについて患者・家族にわかりやすい説明を行い、同意を得る。 2-2) 患者・家族の思い・考え・希望を理解する。		
III 多職種と協働し、看護の役割を發揮する	1. 看護チームの一員として自分の役割を理解する。		
	2. 多職種と情報共有する。		
	3. 地域において、自施設の果たす役割と位置づけを理解する。		
IV 病院経営に参画でき、看護マネジメントができる	1. 看護ケアの質の評価や改善の必要性を理解する。		
	2. NHOが担う医療を理解する。		
	3. 自施設の運営目標と看護部の位置づけを理解する。		
	4. コスト意識を持つ。		
	5. 自施設の危機管理対策を理解し、助言を受けて行動する。		
V 後輩と共に学び合い、自律した看護職になる	1. 日常の看護実践の中で、支援を受けながら看護行為の振り返りを行う。		
	2. 看護実践における問題意識を持つ。		
VI 臨床看護研究ができる能力を有し、看護を創造する	1. 看護実践における問題解決のため必要な文献検索を行う。		
<p>※所属部署で日常的に行われる看護実践について評価する。</p> <p><評価基準></p> <p>A：難易度が低い患者に対する日常的な看護実践において、概ね実践している。</p> <p>B：難易度が低い患者に対する日常的な看護実践において、時々助言を受けて支援者とともに実施している。</p> <p>C：難易度が低い患者に対する日常的な看護実践において、常時助言を受けて支援者とともに実施している。</p> <p><到達の指標></p> <p>○ 各項目の評価の8割以上がB評価以上</p>			

(2) レベルⅡ 能力評価(参考)

	項目	自己	支援者
Ⅰ 高度な専門的知識・技術を有し、主体的に実践できる	1. 自ら情報を得て対象のニーズをアセスメントする。		
	2. 患者・家族の反応を受け止め、援助的関係を形成する。		
	3. 医療安全管理マニュアル・院内感染防止マニュアルを基に、危険を予測し、看護を実践する。		
	4. 根拠に基づいた看護を実践する。		
Ⅱ 高い倫理観に基づいた、質の高い看護が提供できる	1. 倫理上のジレンマを表現する。		
	2. 患者・家族の思い・考え・希望をケアにいかす。		
Ⅲ 多職種と協働し、看護の役割を發揮する	1. 看護チーム内での役割を遂行する。		
	2. 多職種と情報交換する。		
	3. 退院支援システムのプロセスを理解する。		
Ⅳ 病院経営に参画でき、看護マネジメントができる	1. 看護ケアの質向上のための改善点に気づく。		
	2. NHOが担う医療に関心を持つ。		
	3. 組織の目標を理解し、目標達成に向けて行動する。		
	4. 医療用消耗品・医療用機器を管理する。		
	5. 自施設の危機管理対策について、院内各規程に基づき行動する。		
Ⅴ 後輩と共に学び合い、自律した看護職になる	1. 日常の看護実践の中で、看護行為の振り返りを習慣づける。		
	2. 後輩の心身の変化を気にかける。		
Ⅵ 臨床看護研究ができる能力を有し、看護を創造する	1. 自己の課題を見出し文献学習する。		
<p>※所属部署等で日常的に行われる看護実践について評価する。</p> <p><評価基準></p> <p>A：日常的な看護実践においては、概ね助言の必要がなく実践(理解)している。</p> <p>B：日常的な看護実践において、時々助言を受けて支援者とともに実施している。</p> <p>C：日常的な看護実践において、常時助言を受けて支援者とともに実施している。</p> <p><到達の指標></p> <p>○各項目の評価の8割以上がB評価以上</p>			

(3) レベルⅢ 能力評価(参考)

	項目	自己	支援者
I 高度な専門的知識・技術を有し、主体的に実践できる	1. 対象の個別性を捉えたニーズをアセスメントする。		
	2. 患者・家族とのコミュニケーションを促進し、援助的関係を構築する。		
	3-1) 医療安全管理マニュアル・院内感染防止マニュアルに基づき、主体的に行動する。 3-2) 部署内の医療安全・感染防止に関する問題提起する。		
	4. 患者の個別性を重視した看護を実践する。		
II 高い倫理観に基づいた、質の高い看護が提供できる	1. 医療倫理・看護倫理上の問題に気づき、問題提起する。		
	2. 患者・家族にわかりやすい説明と必要な情報提供を行い、意思決定の支援をする。		
III 多職種と協働し、看護の役割を發揮する	1. 主体的に看護チームの一員としての役割を遂行する。		
	2. 多職種と連携・相談する。		
	3-1) 地域の支援ネットワークを理解する。 3-2) 自施設の退院支援システムを活用し、退院支援ができる。		
IV 病院経営に参画でき、看護マネジメントができる	1. 看護ケアの質の評価を行い、看護の質向上に向けた改善の手立てを提案する。		
	2. 社会の医療の変化に目を向け、NHOが担う医療に関心を持つ。		
	3. 自部署の目標達成のため役割遂行できる。		
	4. 診療報酬と看護実践の関連について理解する。		
	5. 自施設の危機管理対策について、所属部署内の問題を提起する。		
V 後輩と共に学び合い、自律した看護職になる	1. 経験を日々の看護実践にいかし、自己の看護観を高める。		
	2. 後輩の学習を支援する。		
VI 臨床看護研究ができる能力を有し、看護を創造する	1. 自己の看護実践の意味づけを行う。		

※所属部署等で日常的に行われる看護実践について評価する。

<評価基準>

A：概ね助言の必要がなく実践(理解)している。

B：時々助言を受けて実施している。

C：常時、支援を受けながら実施している。

<到達の指標>

○各項目の評価の8割以上がB評価以上

(4) レベルⅣ 能力評価(参考)

	項目	自己	支援者
Ⅰ 高度な専門的知識・技術を有し、主体的に実践できる	1. ニーズとニーズの関連を明らかにする。		
	2. 患者・家族の立場や状況を見極め、安定した援助的関係を維持する。		
	3. 所属部署内の医療安全・院内感染防止に関する問題を改善するために、主体的に対策を提案し、継続して実践できるよう働きかける。		
	4. 状況に応じ、適確な判断のもと看護を実践する。		
Ⅱ 高い倫理観に基づいた、質の高い看護が提供できる	1. 倫理的問題の解決に向け、権利擁護に向けた行動をとる。		
	2. 高度かつ複雑な看護を必要とする状態の患者及び家族に対し、適切な説明と助言を行い、意思決定の支援をする。		
Ⅲ 多職種と協働し、看護の役割を発揮する	1. 看護チームのリーダーとして行動する。		
	2. 多職種と協働する。		
	3-1) 地域の関連機関や支援者と関係性を築き、協働する。 3-2) 地域の支援ネットワークを活用し、主体的に退院支援ができる。		
Ⅳ 病院経営に参画でき、看護マネジメントができる	1. チームの中で看護ケアの質を評価し、看護の質を高めるための行動をとる。		
	2. 社会の医療の動向を踏まえ、病棟内の看護やケアに関連した課題を見つけ、解決する。		
	3. リーダーの役割を理解し、主体的に行動する。		
	4. 業務改善に取り組む。		
	5. 所属部署内の危機管理対策に関する問題を改善するために、主体的に改善策を提案し、継続して実践できるよう働きかける。		
Ⅴ 後輩と共に学び合い、自律した看護職になる	1. 自己のキャリア形成について具体的な展望を持ち、主体的に自己研鑽する。		
	2. 後輩育成の役割を果たす。		
Ⅵ 臨床看護研究ができる能力を有し、看護を創造する	1. 研究的態度を身につける。		
<p>※所属部署等で日常的に行われる看護実践について評価する。</p> <p><評価基準></p> <p>A：概ね助言の必要がなく実践(理解)している。</p> <p>B：時々助言を受けて実施している。</p> <p>C：常時、支援を受けながら実施している。</p> <p><到達の指標></p> <p>○各項目の評価の8割以上がB評価以上</p>			

(5) レベルV 能力評価(参考)

	項目	自己	支援者
I 高度な専門的知識・技術を有し、主体的に実践できる	1. 多様なニーズを把握し、患者の価値観を反映した判断ができる。		
	2. 患者・家族、多職種との関係の構築について後輩の役割モデルとなる。		
	3. 医療事故防止対策や感染予防対策について他部署に働きかける。		
	4. 状況に応じて医療チームに働きかけ、看護を実践する。		
II 高い倫理観に基づいた、質の高い看護が提供できる	1. 倫理的視点に基づく看護実践の役割モデルとしての行動をする		
	2. 患者の意思決定支援において後輩の役割モデルとなる。		
III 多職種と協働し、看護の役割を発揮する	1. 看護チームの役割モデルとして行動する。		
	2. 多職種と協働・調整する。		
	3. 患者・家族のニーズを充足するために保健医療福祉サービスの継続性が保証できるよう調整する。		
IV 病院経営に参画でき、看護マネジメントができる	1. チームの中で看護ケアの質を評価し、改善するための方策をスタッフを巻き込んで取り組める。		
	2. 社会の医療の動向を踏まえ、自施設の病院が担う看護や経済的課題を見つけ、解決の方策を考える。		
	3. 自部署の課題に対し、他部門と調整しながら解決行動をとる。		
	4. 経営改善、業務改善に取り組む。		
	5. 自施設の危機管理対策について他部署に働きかける。		
V 後輩と共に学び合い、自律した看護職になる	1. 自己のキャリアアンカーを確認し、役割モデルを果たす。		
	2. チームで学習できる環境を整える。		
VI 臨床看護研究ができる能力を有し、看護を創造する	1. 研究的に取り組む。		

※所属部署等で日常的に行われる看護実践について評価する。

<評価基準>

A：概ね助言の必要がなく実践(理解)している。

B：時々助言を受けて実施している。

C：常時、支援を受けながら実施している。

<到達の指標>

○ 各項目の評価の8割以上がB評価以上

(6) 私のキャリア履歴 (参考)

能力修得 段階 到達状況	能力修得段階	到達年月日	看護師長 印
	レベルⅠ		
	レベルⅡ		
	レベルⅢ		
	レベルⅣ		
	レベルⅤ		
看護実践歴	実践した看護	期間	
研修会 参加状況 * NHO 主催 * 長期研修	研修名	開催月日・主催	
研究業績	研究業績 (研究テーマ)	発表年月日・学会又は投稿	
資格	資格名	取得日・主催 (学校名) 等	
委員会 活動等	役割名等	期間	



MEMO

A series of horizontal dotted lines for writing.

看護職員能力開発プログラム ACTy ナース

看護専門職	榎	まき子
看護専門職	中畑	高子
看護専門職	鈴木	八千代
看護専門職	三井	佐代子
看護専門職	青芝	映美
看護専門職	石橋	薫
教育専門職	松山	ゆかり
看護専門職	町屋	晴美
サービス・安全課長	小宅	比佐子
看護担当理事	内藤	正子

作成年月 平成 18 年 3 月

看護職員能力開発プログラム ACTy ナース Ver.2

看護専門職	高橋	香
看護専門職	佐藤	朋子
看護専門職 (平成 25 年度)	太田	郁子
看護専門職	山内	美佐子
看護専門職	新井	文子
看護専門職 (平成 25 年度)	鳩野	みどり
看護専門職	秋本	洋子
看護専門職	西山	ゆかり
教育専門職 (平成 25 年度)	本郷	千草
教育専門職	志賀	かなえ
看護専門職	澤本	美佐緒
看護専門職	武森	八智代
サービス・安全課長 (平成 25、26 年度)	石橋	薫
サービス・安全課長	原田	久美子
看護担当理事	久部	洋子

作成年月 平成 29 年 1 月

※本書の内容の一部、あるいは全部を無断で複写・複製・転載することは、著作権・出版権の侵害となることがありますので、ご注意ください。



National Hospital Organization